

wish会計事務所
代表 税理士

小林 直樹氏

受験時代に培った粘り強さと
経験は実務にも活かしている。
皆さんも最後まで諦めずに
チャレンジしてください。

日本のプロフェッショナルシリーズ
第403回



日本の会計人

これからなくなる職業、AIに取って代わられる職業という、必ず挙げられるのが税理士だ。しかし、ここに登場される税理士の方たちは、みな口を揃えて「税理士の仕事はなくなるらない!」と言う。東京都板橋区にあるwish会計事務所の代表税理士、小林直樹氏もそう話すひとり。「どんなにAIが発達しても、最後は人と人とのつながりですから」と強調する。小林氏は、不動産オーナーや不動産投資家の悩みに丁寧に耳を傾け課題を見つけて解決する、資産税専門の税理士だ。小林氏が税理士となった経緯から、長かった受験生活とそのとき学んだ人生の教訓、そして資産税に特化した税理士としてのあり方をうかがった。



苦節15年の受験時代

新潟県出身の小林直樹氏が税理士をめざそうと思いついたのは、父親が銀行員だったことから。「父のような金融系、財務系の仕事がしたい。何かがあるだろう」と考えたとき、「やるならプロになったほうがいいな」と思ったのが、税理士をめざしたきっかけだった。「専門的な知識があれば良いサービスが提供できる。月並みだけれど、仕事をきちんとすることで喜んでいただき、社会貢献したかった。そこで税理士がいいんじゃないかと思いました」

こうして税理士をめざし始めたのが21歳。まだ大学

経営学部 に在籍中のことだった。しかし、そこからが長かった。

「受験時代、長かったですね。15年かかって、35歳でやっと税理士試験5科目を取ることができました。大学卒業後はアルバイトをしながら受験を続け、26歳のときに最初の勤め先である池袋の深代会計事務所(以下、深代会計)に入りました。そこに3年ほどいて、その後深代会計にいたメンバーが創設したジャスティス会計事務所に転職します。10年間ほどいる中で、税理士試験合格を手にするのができて、40歳で独立開業に至りました」と、ざっくりと話してくれたが、これは途方もなく長い道のりだ。

実は10年前にこの「日本の会計人」シリーズでジャス

ティス会計事務所を取材している。小林氏に聞いてみると、「知ってます。取材にいらっしやいましたよね。ですから、お会いするのは今日で2回目ですね(笑)」と、しっかり覚えてくれていた。

さて、会計事務所に勤めて仕事を覚えてくると、資格がなくてもバリバリ仕事をして稼いでいる職員もいる。受験期間が長引くと、そんな人を見て「資格がなくてもいいかな」と思うのが人間である。

「そうなりますよね。私も思いました。けれども転職する時期や人生の節目で、やはり自分が変わらなきゃと思うわけです。がっちりやって税理士試験に受かろうと思う。だからブレませんでした。それでもなかなか受からなかったんですけれどね(笑)」と、小林氏は柔和な笑顔で答える。

苦節15年、簿記論、財務諸表論に合格し、次は法人税法、消費税法。最後に相続税法で合格を手にした。最後の相続税はTACの全国公開模試で1位にもなった。しかしその年の本試験では不合格の判定が下された。「最後の相続税法はきつかった。だからね、勝負時には勝たなきゃダメなんです。慢心してはいけません。10年以上受験していると、もう3科目合格している、4科目合格していると言って引けないところがある一方で、受験に対する熱さがどんどんなくなってくるんです。受験を始めた頃はすごく力強く熱くやっていたのに、10年も経つと何か安易な感じになっちゃうんですよ。TACの全国公開模試1位で不合格。そこでガツンとやられて……初心に戻れたことが、合格できた秘訣かもしれませんね。

いろいろ手は打つんだけど、世の中はうまくいかない。でも諦めずにやり通すことで、最後はうまくいくという実体験を、税理士試験を通じて手にしました。とりあえずチャレンジしない限りは正攻法はわからない。5つぐらい挑戦してみて1つ当たればラッキー。1~2個当たるには挑戦しないとダメだって、受験を通して学びました。時間はかかったけれど、そこで学んだことは本当に今にすごく生きています。だから僕は粘り強い。開業してから、受験時代に培った粘り強さと経験が生きてるんですよ」

受験時代を語る小林氏はとても熱かった。



顧問先の9割が大家さん

長い受験期間を経て独立開業したのは40歳。もちろん、前職に10年間勤務していたのだからそのまま勤務税理士として勤める道もあった。けれども「何のために税理士試験を頑張ったか」を考えれば、独立して自分でやる、自分の力を試してみたいという思いが強くなる。

2014年4月、小林氏はジャスティス会計事務所を退職して東京都板橋区で看板を掲げる。年間5万円の契約1件からのスタートだった。

「もともと住んでいたアパートの大家さんがお客様になってくださって、それがスタートでした。その他、最初は不動産会社の無料セミナーや無料相談会をかなりやりました。無料だからといって手を抜かずにきちんと対応していったら、半年ぐらい経った頃から結果が出てきました。地道にやっていたらお客様も増えるものなんだなと思いましたね。

最初はそれしかやっていなかったのが、4月に開業して初めて申告したのがなんと11月。それまでずっと申告業務はありませんでした。先々月もない、先月もない、ああ今月もないって、毎月確認しながらやっていましたよ(笑)」

ここでの粘り強さも受験で学んだものなのだろう。こうして半年かけて顧問先は8件に増えた。それが2年目に入ると芽が育って個人の確定申告も受けるようになる。その時小林氏は、勤めている時は感じなかった「税理士は求められているんだな」という感覚を初めて感じたという。無料相談からの申告業務の依頼も次第に増えて、2年目には顧問数50件に。その時点で、顧問先の9割は大家



▲開業5年目の現在、事務所は総勢25名、そのうち税理士を含む正社員が9名となった。